

① 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

② 公開特許公報 (A)

昭57—148599

⑤ Int. Cl.³
分類不能

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 昭和57年(1982)9月13日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑤ 逆さヒザ落とし

⑦ 発明者 宮崎光三
茂原市道表5の1

① 特 願 昭56—32730

⑧ 出 願 人 宮崎光三
茂原市道表5の1

② 出 願 昭56(1981)3月7日

明 細 書

1. 発明の名称 逆さヒザ落とし
2. 特許請求の範囲

自分の片ヒザを立て、背中をヒザに落とし、同時に後頭部をマットに落とす(5)。そのままフォール(6)する。

以上の如く構成されたプロレスのきめ技。

3. 発明の詳細な説明

本発明はプロレスリングの技に関するものである。従来よりプロレスの技はかなりあるが、本発明の技はそれ以上のものである。

今まで背骨折りはカナディアン式、アルゼンチン式、シュミット流などとあつたが、相手を一時的に痛めるだけで、きめ技となるものはなかつた。

本技はその欠点を除くために発明されたもので、背骨折りに後頭部打ちのダメージを加えたすばらしい複合技である。

本技を図面にそつて説明すると、相手の背中側から腹を両手でおさえる(1)。それをかつぎあげ(2)すでに公知のカナディアンバックブリーカーぎみ

にする(3)。手はやや腰の方へ近く、片ヒザをまげて相手を頭から落とすようにする(4)。マットに自分の片ヒザを立て背中をヒザに落とし、後頭部をマットに落とす(5)。そのままフォールする(6)。

本技は、相手を背骨と一緒に後頭部を打ちそのままフォールするというすばらしい技である。

なお、本技は危険な技ではあるが、技をかけた方が力をぬいて技をかけることができ、危険を防止でき、ショーとしてのプロレスに大変貢献できる、すばらしい大技である。

4. 図面の簡単な説明

(1)～(6)は本発明の立体連続図

特許出願人 宮崎光三

